

1. 施工予定区間の重要種に関する予測

1.1 重要種の確認状況

現地調査における重要種の確認状況を表-1に示す。動物が11種、植物が1種確認された。

重要種の選定基準別では、環境省レッドデータブック記載種が1種、千葉県レッドデータブック記載種が12種である。

表-1(1) 今回の調査で確認された重要種(動物)

門名	種名	千葉県RDB	環境省RDB	確認された時期・測線
軟体動物	ウネナトマヤガイ	B	—	秋季 L-1,L-2,L-4,L-5、冬季 L-3,L-5、 春季 L-5、夏季 L-1,L-2,L-3,L-5
	ムシロガイ	C	—	秋季 L-2
	オキシジミ	C	—	秋季 L-3,L-5、冬季 L-5、春季 L-3,L-4,L-5、夏季 L-3
	ソオリガイ	C	—	夏季 L-5
	カワグチツボ	D	—	秋季 L-4,L-5、冬季 L-5、春季 L-5、夏季 L-5
	ウミコマツボ	D	—	秋季・冬季は全測線、春季 L-1,L-4,L-5、夏季 L-3,L-4,L-5
節足動物	マメコフシガニ	D	—	秋季 L-3,L-5、冬季 L-4、春季 L-4,L-5、夏季 L-1,L-4
	ヤマトオサガニ	D	—	春季 L-5、夏季 L-5
	モクスガニ	D	—	冬季 L-3
脊椎動物	ヒリソコ	D	—	秋季 L-2, L-3, L-4,L-5、冬季 L-2, L-3, L-4、 春季 L-2, L-3, L-4,L-5
	イトハゼ	D	絶滅危惧 IB 類(EN)	春季 L-1,L-2,L-4,L-5、夏季 L-2, L-5

※RDB はレッドデータブックの略

表-1(2) 今回の調査で確認された重要種(植物)

門名	種名	千葉県RDB	環境省RDB	確認された時期・測線
種子植物	アマモ	D	—	春季 L-3、夏季 L-4

※RDB はレッドデータブックの略

注 1: 環境省レッドデータブックカテゴリー

- 「絶滅危惧 I 類 (CR+EN)」
絶滅の危機に瀕している種
- 「絶滅危惧 IA 類 (CR)」
ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
- 「絶滅危惧 IB 類 (EN)」
IA 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
- 「絶滅危惧 II 類 (VU)」
絶滅の危険が増大している種

注 2: 千葉県レッドデータブック共通評価基準及びカテゴリー

X 消息不明・絶滅生物	かつては生息・生育が確認されていたにもかかわらず、近年長期にわたって確実な生存情報がなく、千葉県から絶滅した可能性の強い生物。ただし、すでに保護の対象外となったかに見える生物であっても、将来、他の生息・生育地からの再定着や埋土種子の発芽などにより自然回復する可能性もありうるため、かつての生息・生育地については、現存する動植物と共に、その環境の保全に努める必要がある。
A 最重要保護生物	個体数が極めて少ない、生息・生育環境が極めて限られている、生息・生育地のほとんどが環境改変の危機にある、などの状況にある生物。放置すれば近々にも千葉県から絶滅、あるいはそれに近い状態になるおそれがあるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最大限の努力をもって軽減または排除する必要がある。
B 重要保護生物	個体数がかなり少ない、生息・生育環境がかなり限られている、生息・生育地のほとんどで環境改変の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、近い将来カテゴリー A への移行が必至と考えられるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は可能な限り軽減または排除する必要がある。
C 要保護生物	個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば著しい個体数の減少は避けられず、将来カテゴリー B に移行することが予測されるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響及び要因は最小限にとどめる必要がある。
D 一般保護生物	個体数が少ない、生息・生育環境が限られている、生息・生育地の多くで環境改変の可能性のある、などの状況にある生物。放置すれば個体数の減少は避けられず、自然環境の構成要素としての役割が著しく衰退する可能性があり、将来カテゴリー C に移行することが予測されるもの。このカテゴリーに該当する種の個体数を減少させる影響は可能な限り生じないように注意する。